

29 久米ヶ瀬戸の早乙女之碑

旧跡 五月町の旧国道添北側（徳山静養院下）

現在地 遠石三丁目 千日寺境内（碑）

街道にまつわる伝説はどこにも在るが、徳山「久米ヶ瀬戸の早乙女松」は、街道を通る旅人と地元民とにかかわる風習の違いから起きた悲しい事件であった。

田植え時、側を通行する人に“早苗打ち”といって稲の苗を投げ付け、ご祝儀を戴くと云う風習があった。

ある日（年代不詳）九州からの飛脚が通りかかった時、早乙女の一人が手に持っていた早苗を投げ付けたところ飛脚は無礼と激怒して早乙女を刺し殺してその場を立ち去った。



近所の人たちは殺された早乙女を哀れみ、この場所に塚を建て松を植え懇ろに弔い供養をした。

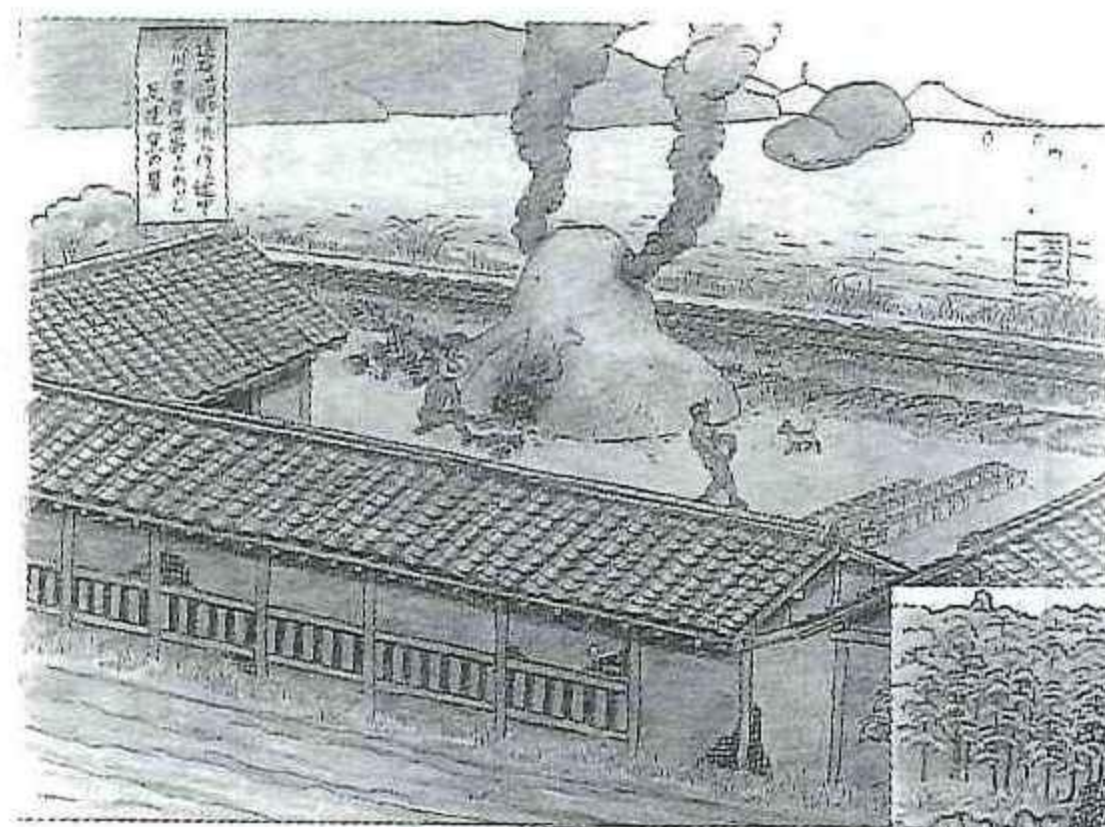
土地の人はこの松を「早乙女の松」と云う。またその松の皮を剥ぐと怨念か血が出たと云って恐れられていたと伝えられた。

昭和11年（1936）旧海軍省が地下タンク建設のため用地を接收し松も切られ跡地も無くなった。

昭和11年松本静子（元県議松本良一夫人）によって現地に早乙女碑が建てられたが、今は遠石千日寺の境内に移されている。

30 かわら焼窯・石灰窯跡

遠石から櫛浜にさしかかるところに衣川きぬがわが流れている。その衣河口の東側に、かわら焼窯があった。ちょうど鉄道線路わきの砂浜にあった。徳山でかわら焼窯があったのは、ここが一軒で、持主は中原という人であった。この焼窯は戦時中まであり、注文に応じてかわらを焼いていたという。



麦二画

石灰窯せっかいは、衣川河口のかわら焼窯のすこし山手にあった。石灰石は下松市の米川あたりの山間部から採って焼いていた。

昔は化学肥料がなかったので、農家は草を刈って田畑の肥料にしており、生石灰や人糞は農家に欠かすことができなかった。

今はどちらの窯跡もない。

